5.　WPW 症候群の一例：Kent 束切断術前後の心プールシンチグラフィについて

加藤　明　桂木　誠　岸川　高
（佐賀医大・放）
内藤　光三　伊藤　翼　（同・胸外）

症例は16歳の男性．うっ血性心不全の状態で入院となった．入院後，右型 WPW 症候群と僧帽弁逆流症の診断で Kent 束の切断術と僧帽弁置換術が施行され，状態の改善をみた．術前に施行された心プールの位相解析では右心室の早期興奮が認められたが，術後の検査では早期興奮が消失し，両心室がほぼ同時期に収縮していた．心プールシンチグラフィでは側副伝導路の正確な位置決定には限界があると思われたが，術前術後の収縮様式の変化が明瞭に観察された．

6.　モヤモヤ病患者の局所脳血流検査

星　博昭　陣之内正史　長町　茂樹
大西　隆　吉村　広　二見　繁美
渡辺　克司　（宮崎医大・放）
上田　孝　木下　和夫　（同・脳外）

モヤモヤ病における RI を用いた局所脳血流検査の臨床的意義について検討した．対象は小児脳虚血型8例（男性3例，女性5例）で，装置はリング型 ECT 装置 SET-020（島津）を用いた．検査は，^{133}Xe 吸入法による局所脳血流検査と ^{123}I-IMP SPECT である．得られた脳血流像は血流低下部位の分布，血流値について検討し，鈴木らの血管造影による病期と比較した．

結果：前頭葉，側頭葉を中心とした血流低下がみられ，血流低下の範囲は，鈴木らの血管造影による病期の進行とともに広がり，stage IV では後頭葉まで及んだ．また，局所脳血流値も，病期の進行とともに低下した．

7.　てんかん患者の発作間歇期における ^{123}I-IMP を用いた SPECT による局所脳血流の検討

高橋　一之　森田誠一郎　吉居　俊朗
深江　俊三　倉重　博章　目野　茂宣
野村　保史　上妻　隆昌　平山　貴紳
大竹　久　（久留米大・放）
中沢　洋一　（同・精）

今回われわれは，久留米大学 RI 施設において昭和63年11月1日より平成元年2月20日の間に，てんかん患者26例を対象に，^{123}I-IMP を用いた SPECT による局所脳血流を検討した．

26例中24例（92.3%）に異常を認め，24例すべてに局所脳血流低下を示唆する低集積像が認められた．X線-CT，脳波等との比較検討を行ったので，若干の文献的考察を加えて報告した．

8.　悪性黒色腫における ^{123}I-IMP シンチグラフィの検討

中別府良昭　中條　政敬　岩下　慎二
田之上供明　島岡　俊治　篠原　慎治
（鹿児島大・放）

N-isopropyl-p-[^{123}I]-iodoamphetamine（^{123}I-IMP）は脳血流イメージ剤として脳血管障害やてんかんなどの神経疾患に広く使用されているが，近年悪性黒色腫の原発巣および転移巣の検索にも用いられるようになってきている．われわれも悪性黒色腫患者7例について，^{123}I-IMP シンチを施行した．イメージは ^{123}I-IMP 3 mCi 静注後4時間目に前後全身像，頭部～骨盤部の spot 像および病巣部がはっきりしている場合は同部の spot 像を得た．7例中術前に施行しえた3例に異常集積が認められた．術後症例では，異常集積は認められなかった．これらの症例について病巣の部位，大きさおよび ^{123}I-IMP の集積の有無等について検討したので報告する．

Presented by Medical*Online